アヌココㇿ アイヌ イコロマケンル ソンコ
国立アイヌ民族博物館ニュースレター

アヌアヌ

NATIONAL AINU MUSEUM
ANUANU
025
2026.09



国立アイヌ民族博物館
第12回特別展示

コソンテと ルウンペ

布は文化を超える。もうひとつの装い。

布を通した装いの交流が
どのように展開したのかを紹介します
詳しくは4ページへ！



博物館のプロフェッショナル②
博物館Pickup!
調査研究最前線⑰
10月・11月のイベント情報
見て見て！園内サイン⑬
すべる、のぼる、みつける。
「トムトム」であそぼう！

写真左：コソント（樺太）桐竹鳳凰花文縫箔肩裾 東京国立博物館蔵　写真右：ルウンペ 釧路市立博物館蔵

博物館のプロフェッショナル

当館職員が博物館でどのような業務に携わっているかを紹介します

ICOM（国際博物館会議）とは？

ICOM（国際博物館会議）は、世界139の国と地域から、約6万人の博物館専門職が参加する、博物館分野で世界最大の国際NGOであり、今年で創設80年を迎えました。120の国内委員会と8つの地域連盟、そして博物館のさまざまな専門分野に応じて組織された35の国際委員会、さらに各種ワーキンググループや特別委員会が設けられています。

3年に一度開催されるICOM大会では、「これからの博物館は社会のために何ができるのか」をテーマに、文化財保護や教育、多様性、デジタル技術など世界共通の課題について議論し、その成果を「大会決議」として採択します。この決議は、その後3年間の世界の博物館活動や国際協力の方向性を示す重要な指針となります。

ICOM international council of museums

ICME ICOM international committee for museums and collections of ethnography
民族学の博物館・コレクション国際委員会

CECA ICOM international committee for education and cultural action
教育・文化活動国際委員会

AVICOM ICOM international committee for audiovisual, new technologies and social medias
オーディオビジュアル及びソーシャルメディア新技術国際委員会

ICOMへの参加

世界の博物館が果たすべき役割を考えるため、2019年京都大会では、当館の設立準備室からも職員らが、ICME（民族学の博物館・コレクション国際委員会）や、CECA（教育・文化活動国際委員会）に参加・発表・出展しました。
また、2025年アラブ首長国連邦（UAE）・ドバイ大会の準備のため、2024年末、劉研究員が大会決議を作成する特別委員会（起草委員会）の委員に選出され、約1年にわたり世界各国の専門家と議論を重ね、博物館の未来に関わる国際的な指針づくりに携わりました。また、2025年には劉研究員がAVICOM（オーディオビジュアル及びソーシャルメディア新技術国際委員会）に理事として選出されました。



2025年11月12日、ドバイ大会初日の起草委員会の質疑応答の様子
（ICOM事務局撮影、左から5番目が当館の劉研究員）

ドバイ大会での活動

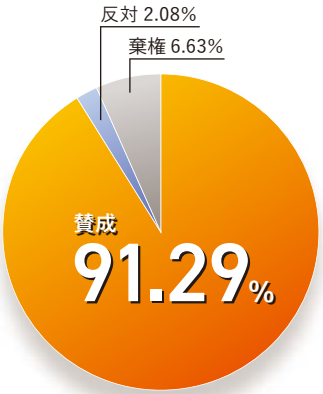
劉研究員は、以前から博物館におけるデジタル技術やAIの活用を研究テーマとしてきたことから、35の国際委員会のひとつであるAVICOMにおいて、「博物館のデジタル未来」に関する大会決議の必要性を提案しました。このテーマには世界19の国際委員会および国内委員会からも関連の提案が寄せられました。
劉研究員は起草委員会の委員として、南アジア、西アフリカの委員とともに作業グループを構成し、実質的なグループリーダーとして、決議案全体の取りまとめなどを担いました。

2 世界の博物館の未来をつくる国際的な指針づくり
―ICOM大会決議の採択に携わって―

この業務には国際博物館会議（ICOM）起草委員会に携わった研究員が対応しました

ドバイ大会での採択

2025年11月14日に開催されたICOM第40回通常総会では、起草委員会がとりまとめた6本の大会決議がすべて採択されました。劉研究員が中心となってとりまとめた決議案（No.3）も、賛成91.29%（反対2.08%、棄権6.63%）という高い支持を得て承認されました。

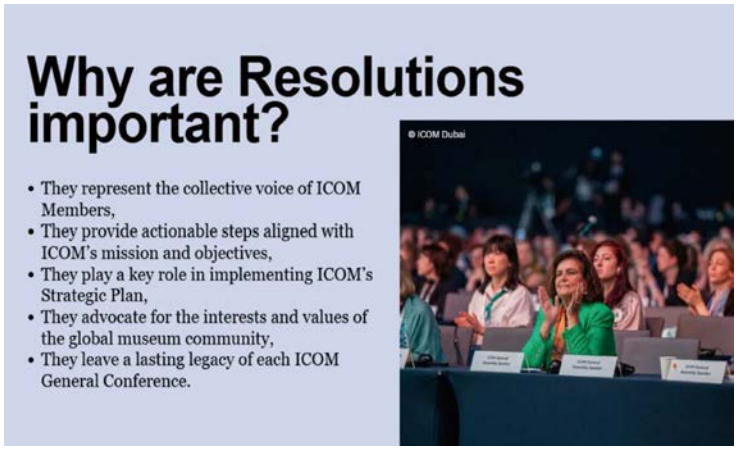




2025年11月14日、ICOM第40回総会で決議No.3が紹介される場面（ICOM事務局撮影）

決議案No.3

この決議案は、最終的に「博物館の公平で倫理的かつ持続可能なデジタル未来の構築」をテーマとしてまとめられました。1995年の「情報技術の進展」に関するICOM決議以来、30年ぶりに博物館とデジタル技術を正面から取り上げた歴史的な決議となりました。議論では、AIの倫理的利用、アクセシビリティ、多言語対応、知識への公平なアクセス、持続可能性など幅広い課題が取り上げられました。



2026年6月25日、パリで開催されたICOM第41回通常総会。
写真は総会で配布された大会決議ガイドラインの1ページ（手前：起草委員会委員長、左奥：劉研究員）
©ICOM Dubai


2025年11月12日、“ICOM Resolutions : Legacy & Implementation” のセッションで決議No.3を紹介する劉研究員

決議文（英文PDF）はこちら


劉高力 研究員

世界と地域をつなぐ博物館へ

議長から採択が宣言された瞬間、約1年間にわたり世界各地の委員と積み重ねてきた議論や調整が実を結び、言葉では表せないほどの喜びと深い感動を覚えました。

これらの決議は世界各国の博物館やICOMの各委員会において、教育、文化財保護、デジタル化、地域連携などの取り組みを進める際の重要な指針として活用されることが期待されています。博物館は、文化を守るだけでなく、人と人、地域と地域、そして国と国をつなぐ場所でもあります。今回採択された6つの大会決議が、その歩みを支える力となることを心から願っています。

国立アイヌ民族博物館　第12回特別展示

コソンテとルウンペ

布は文化を超える。もうひとつの装い。

2026 9/19(土)〜11/23(月・祝)　国立アイヌ民族博物館 特別展示室

【休館日・閉室日】月曜日（祝日または休日の場合は翌日以降の平日）
※9/21(月・祝)・24(木)・10/12(月・祝)・11/2(月)・3(火・祝)・11/23(月・祝)は開館。10/13(火)は閉館。10/19(月)は展示替えのため特別展示室を閉室いたします。

アイヌの「コソンテ」（北海道）、「コソント」（樺太）は、小袖に由来するアイヌ語です。本州で武家女性が身につけていた小袖は、アイヌ文化のなかで主に男性が儀礼の際に羽織る盛装となり、その布は、ルウンペと呼ばれる衣服の文様や装飾にも用いられました。本展では、布を通した装いの交流がどのように展開したのかを紹介します。あわせて現代へ受け継がれる技術や表現にも注目します。

特別展示ウェブサイトはこちら

出品資料より

本州からもたらされた小袖の布は、ルウンペの飾りとしても大切に生かされました。小袖の布を大胆に配したものや、細く裁って繊細な文様を描いたものなど、多様な装飾表現をご紹介します。



コソンテ
萱野茂二風谷アイヌ資料館蔵
国指定重要民俗文化財



ルウンペ
浦河町立郷土博物館蔵

関連イベント

第20回東京文化財研究所 無形文化遺産部公開学術講座
アイヌと無形文化遺産
－ウポポイにおける行動を中心として－

10/2(金)
13:30〜17:00

東京文化財研究所　地階セミナー室
（東京都台東区上野公園13-43）

定員100名・事前申込制

関連シンポジウム
コソンテとルウンペからみるアイヌの衣文化

10/31(土)
13:30〜17:00

赤れんが庁舎　赤れんがホールB

定員90名・予約不要

ギャラリートーク

9/19(土),26(土),10/10(土),11/3(火・祝),8(日),14(土)
各回14:00〜（11/3のみ10:30〜）

特別展示室

定員20名・予約不要

おしゃべりギャラリートーク

9/22(火・休),11/3(火・祝)
14:00〜14:30

子ども向け

特別展示室

定員15名・予約不要

アイヌ文様を刺繍した小さい巾着を作ろう!

10/4(日),24(土)
10:30〜・13:30〜（各90分）

交流室

定員各10名・無料・事前申込制

バッグにアイヌ文様を描いてみよう!

9/21(月・祝)
13:30〜15:00

子ども向け

交流室

定員30名・無料・先着順

トゥレッポんのおさんぽ特別版
トーハクくん、ユリノキちゃんとトラりんが遊びに来るよ！

9/21(月・祝), 22(火・休)

エントランス



※全イベント参加無料（ただし、ウポポイ入場料が必要）です。詳しくは当館ウェブサイトをご覧ください。

国立アイヌ民族博物館の収蔵、展示資料をピックアップして紹介します。

博物館Pickup!

ルウンペ

9月19日から開催する第12回特別展示「コソンテとルウンペ」では、アイヌ民族の伝統的な衣服などを展示しています。
今回は、展示に関連して、ルウンペの特徴や見どころについてご紹介します。

アイヌの衣服の種類

アイヌの衣服には、大きく分けて、自ら素材を採集し、製作まで行う自製の衣服と、交易や労働の対価として入手した外来の衣服があります。自製の衣服には、動物の皮や植物の繊維を用いたものがあります。外来の衣服には、木綿衣、小袖、陣羽織、蝦夷錦などがあり、そのまま着用するものや仕立て直したもの、アイヌ独自の文様を施すものなどがあります。
木綿衣は、製作技法によって、おおまかに次の3つに分類できます。アイヌ文様になるよう①細長く裂いた布を折り曲げながら縫い付けるもの、②幅広の布を切り抜きながら縫い付けるもの、③糸だけで刺繍するものがあります。また、これらの技法を2種類以上組み合わせた衣服もあります。

ルウンペについて

ルウンペは前述した①の製作技法を用いる衣服です。文様に用いる布の幅は太いものから細いものまであり、文様が身頃全体に施されたものもあれば、上下に分かれたデザインのものもあります。デザインにも②の技法を囲むような文様やコの字が対になった文様などたくさんのバリエーションがあります。素材も木綿だけではなく、小袖を裂いたものや絹、ウールなどがあり、華やかな色合いのものから落ち着いた色合いのものまでさまざまです。
第12回特別展示では、多くのルウンペを展示します。一見すると似た構成の文様でも同じものはなく、縫い方やデザインにも違いがあります。それぞれの作品を見ながら、文様の構成や意匠の違いに注目していただくと、新たな発見があることでしょう。「どこが違うのだろう」「自分ならどのような文様にするだろう」と想像を巡らせながら、ぜひ展示をご覧ください。

（教育普及室長　北嶋イサイカ）



ルウンペ
札幌市蔵



ルウンペ
札幌市蔵



ルウンペ
当館蔵

Report

2025B02アイヌの歌唱方法に関する研究：記録と現在の実践分析

研究員　川上さやか

2025年度、国立アイヌ民族博物館の調査研究プロジェクト「アイヌの歌唱方法に関する研究：記録と現在の実践分析」では①伝統的な歌唱を受け継ぐ伝承者への聞き取りを行うとともに、②2024年度までの民族共生象徴空間ウポポイの体験交流ホールで行ってきた伝統的歌唱方法の習得に関する指導内容についてのまとめを行いました。

① 伝統的な歌唱を受け継ぐ伝承者への聞き取り

1度目の調査では、釧路市阿寒町にお住まいの日川キク子さんに、アイヌ歌謡の採録、演目の内容、日川さん自身の伝承活動について聞き取りを行いました。

日川キク子さんは長年アイヌ文化の伝承活動を行ってきた方で、今でも現役で歌い続けています。著者が2024年度まで在籍していた、芸能課（ウポポイ園内の体験交流ホールで公演を行う部署）でも、公演における歌唱の参考とさせていただいていました。

日川さんの歌唱音声は、千葉伸彦著『阿寒のうた(ウポポ)』（株式会社クルーズ、2012年）などで多くの演目を聴くことができますが、公演などにおける歌唱方法や音程の取り方など、細かい部分が少しずつ変化していることがうかがえます。

そのような変化の理由は何か。また、変化のあり方を知ることで、アイヌの芸能の伝承活動を行う人たちが、自分たちの歌唱方法を発展させる際の参考として取り入れ、新たな技術の習得に役立てられるのではないかと考え、現在の日川さんの歌唱の聞き取りを行いました。また、この機会に自分の声でいろいろな歌を残しておきたいというご本人の意向もあり、一般には公開していなかった演目も歌ってくださいました。


日川キク子さんへの聞き取りの様子（1回目）

２度目の調査では、同じく日川キク子さんへの聞き取りで採録しきれなかった演目の採録を行ったほか、歌に合わせた踊りの実演等も見せていただきました。


日川キク子さんへの聞き取りの様子（2回目）

また、阿寒で伝承活動を行っている山本栄子さん、床みどりさんにもお話をうかがい、阿寒におけるこれまでの芸能の伝承活動や演目について、教えていただきました。


日川キク子さんには
踊りの解説もしていただきました


山本栄子さんへの聞き取りの様子

このような調査内容を、各地のアイヌ文化伝承者が自らの活動にいかすことができるように、収集・整理・公開を進めていきたいと考えています。

② 2024年度までの民族共生象徴空間ウポポイの体験交流ホールで行ってきた伝統的歌唱方法の習得に関する指導内容について

2026年1月には、慶應義塾大学で行われた研究会の中で、2024年度まで芸能課でアイヌの伝統的歌唱法の指導に当たっていた著者が、歌唱法の習得に関する取り組みと指導内容について発表しました。

これまで内部での方針の確認・参考となる音声の収集・データの整理・歌唱法の検討・指導を行うといった、公演に至るまでの一連の流れを外部の方に紹介する場面がなかったため、どのようなプロセスを経て、公演・実演を行っていたかを知っていただける貴重な機会になりました。

次年度以降は、公演までの流れだけではなく、演目の一つを取り上げて具体的な公演までのプロセスをお話しする予定です。


指導内容の講演会

2026年 10月・11月のイベント情報

博物館では、解説だけでなく、アイヌ文化を体感できる内容のイベントをほぼ毎週行っています。はじめての方も、そうでない方も博物館で「楽しく学んで」みませんか？

講演会「アイヌ絵師 平沢屏山について」

参加無料

2026 10.12月

- 時間／14:00～15:00
- 会場／国立アイヌ民族博物館 1階 交流室
- 講師／佐々木利和氏

- 定員30名程度～予約不要、当日会場にて受付(先着順)、小学生以下保護者同伴
- 写真動画撮影・録音不可

今年は19世紀に函館で活躍したアイヌ絵師・平沢屏山(1822～1876)の没後150年にあたります。

そこで、北海道大学招へい教員の佐々木利和氏を講師に迎え、平沢屏山のアイヌ絵を見ながら、その特徴や時代背景、地域性等を紹介します。また、「なぜ19世紀の函館でこれほど多くのアイヌ絵が生まれたのか」という歴史的な問いまで、幅広くお話しいただく予定です。

アイヌ絵という言葉を初めて聞く方も、これまで関心をお持ちだった方も、ぜひお気軽にご参加ください。



佐々木利和氏



昆布採取図 当館蔵



出漁図 当館蔵



酒宴図 当館蔵

自分だけのミニタマサイをつくろう!

参加無料

2026 11.23月

- 時間／11:00～ 14:00～
- 会場／国立アイヌ民族博物館 1階 交流室

- 定員各回6組程度～要事前申込(詳細はウェブサイトをご確認ください)、小学生以下保護者同伴
- 自身のグループのみ写真撮影OK！　動画撮影・録音不可

アイヌ民族の女性の首飾り「タマサイ」のミニチュアをつくります。きれいな色のビーズや飾りを使って自分だけのミニタマサイをつくりましょう。





オリジナルのミニタマサイ完成！

毛糸で「ルサ」をつくってみよう!

参加無料

2026 11.28土

- 時間／13:30～ 14:30～
- 会場／国立アイヌ民族博物館 1階 交流室

- 定員各回10名～予約不要、当日会場にて受付(先着順)、小学生以下保護者同伴
- 写真撮影OK！　動画撮影・録音不可

「ルサ」とは、松浦武四郎※の『十勝日誌』にも出てくる、ヨシで編んだ草製のお皿です。食事の際などに使われました。本来はヨシと軸にする木の枝でつくりますが、本イベントでは、カラフルな毛糸とストローを使って「ルサ」をつくります。だれでも簡単に体験でき、つくった「ルサ」は持ち帰ることができます。

※幕末に北海道や樺太を何度も調査し、北海道の名称を提案した人物



ルサ







かわいらしいルサ完成！

- イベントに関するお問い合わせ　電話:0144-82-3914(受付時間9:00～18:00)
- その他にも多くのイベントを開催しております。詳しくは当館ウェブサイトなどでご確認ください。

見て見て！園内サイン

ウポポイの園内サインをご紹介し、皆さまにより広くアイヌ語を知っていただくコーナーです！

13 カンピソシ プ 書庫

当館の1階には、ご来館の方ならどなたでもご利用いただけるライブラリがあります。スタッフが常駐しているカウンターの後ろには「カンピソシ プ」と書かれた扉があります。その扉の向こうにもう一つ部屋があります。プとは「倉」のことです。かつての生活では穀物や肉、魚などを貯蔵するための倉をこのように呼んでいました。カンピソシとは、「カンピ(紙)・ソシ(重なったもの)」で本や冊子を意味します。ライブラリで来館者が手に取れるように配架されている本は限られていますが、当館にはアイヌの文化や歴史に関する書籍を中心にたくさんの本が収蔵されています。ライブラリに出ていない本は、所蔵があれば、カンピソシ プからスタッフが出して閲覧することもできます。

（研究主査　小林美紀）



カンピソシ プ(書庫)の扉とサイン



ライブラリのカウンター

すべる、のぼる、みつける。「トムトム」であそぼう！


インクルーシブブランコ
※体幹の保持が難しいお子さまも安心して楽しむことができます。



ウポポイPRキャラクター
トゥレッポん

2026年4月、ウポポイに屋外大型遊具広場「トムトム」（アイヌ語で「ぴかぴか光る」の意味）が誕生しました。
アイヌ民族の伝統的な生活空間である水辺の「漁」をモチーフにしたオリジナル設計＋ユニバーサルデザインの複合遊具で、車いすを利用するお子さまや体幹の保持が難しいお子さまも、一緒に楽しめる工夫がいっぱい。
ふねをモチーフとした児童用遊具、さけをモチーフとした幼児用遊具に加え、サポートが付いたインクルーシブブランコも設置し、幅広い年齢の子どもたちで賑わっています。


さけをモチーフとした幼児用遊具


オープン初日の様子


ふねの遊具側面に描かれた海の生きもののイラスト

NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館

ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

■お問い合わせ
公益財団法人 アイヌ民族文化財団（ウポポイ内）
住　所：〒059-0902 北海道白老郡白老町若草町2丁目3番1号
電　話：0144-82-3914　FAX：0144-82-3685
メール：info@ainu-upopoy.jp

プログラム等の詳しい情報はウポポイウェブサイトをご覧ください。
ウポポイ　検索
https://ainu-upopoy.jp/

※アヌアヌは、アイヌ語で「もしもし」の意味です　※表紙タイトルロゴデザイン：小笠原小夜
国立アイヌ民族博物館ニュースレター「アヌアヌ」第25号　編集・発行：国立アイヌ民族博物館　2026年9月発行　印刷：佐川印刷株式会社　ISSN 2435-8207